

## 私の趣味《1》

# 病と趣味と私と

滝沢清宏 (西区 開業 副会長)

亡き原紀道大兄を偲ぶ鎌倉の高徳院での会で、私は不倫の相手と開業し、柄にもなく妻妾同居(同職)を目指した事などを挨拶の一端で触れた。40歳で開業する迄年末に罹かるインフルエンザ以外寝込むことの無かった私だが、開業5カ月後左睾丸セミノーマ(腰麻+放射線療法、3カ月入院)、52歳時胆のう腫瘍(全麻)、58歳時内外痔核摘出術(腰麻)、62歳時胃未分化癌(全麻)と別れた愛人の怨みなのか、病勝ちになった。

セミノーマは、勤務医時代に“レイ子”さんという恋人のいた銀座のクラブ“檜”の“とし子”ママが、お滝さんの玉玉は惚れ惚れする程硬くて大きいのねえと言って、定期的に観掌(?)して呉れていたのが私の命を救う結果になった。尤もその時傍に坐った“レイ子”さんは、ママとお滝さんの“真中の竿”も立派なのよおと反論するのが常ではあったが…。この病の効用は術前(恐らく数年)にも、術後(2年のみ)にも思いもよらぬほど精力絶倫となる事であった。ために私は1週間(6泊7日)、妻以外の毎夜別の全てプロではない女性6人と交渉を持つという荣誉に輝いた事すらある。全精力を短期間に使い切ったためか、昨年暮に妻との交渉後血精の発射を見て、私の男としての使命が終わった事を知った。以来妻とは同志として結合し相争う事は皆無となった。

妻とは彼女が18歳の5月13日(昭和37年)、親友S氏(今シドニーに在住していて、先日MMタワーの私の別宅で会食した)の紹介でデートして以来42年の付き合いになる。身体は丈夫なのだが、太めの割に胃が弱く、定期的な内視鏡検査を榮転して地方に赴任した主治医に命じられていたのだが怠っていた。痔のフォローをして頂いていた松島ランドマーククリニックの三穂先生に勧められて、夫婦一緒に行なった検査が、又私の命を救う(今の所)結果になった。

話は変わるが、私が県皮の役員に拾われてから20数



私と職員一同(嫁を含む)

年を経てつくづく感ずる事は、県皮の役員は真面目人間が多いという事実であった。特に女性面での醜聞はほとんど耳にしない。酒の席の話題にすらならない。亡き紀道さんとはよく酒を飲んだが、一度だけ彼は愛妻和さんに反逆したものの簡単に白旗をあげてしまったようだし、信さんなどは“不倫は敵よ”などと豪語しているし、一時元気のよかった内ちゃんにしても相手は正妻であるし、莉さんやお杉さんにしても女の話は耳にしなかった。となると、こと“女”に関しては、安西→お富→私と3代に亘る誇るべき実績は称讃されてよい。

バブル期の趣味はと問われれば、酒と女とカラオケと絵と不動産の「蒐集」と、やる事は実に多かった。ために有利子負債は水揚げの2倍半、年収の10倍にも及んだ。その上金のかからない東京の2文字を分割して、2人の子供が長女は東海、長男は帝京と金のかかる点で両横綱を張る2つの私大の医学生になったから、私の貧困は目を覆う惨状となった。

家作の値段は買値の半分以下になったけれど、ローンの金利や固定資産税も下落した。その割に家賃はさほど下らなかったのが首を吊らずに済んだ。私の借金のほとんどを作った責任者I氏は未だ私の親友の1人だが、その彼を使ってこの10数年間手持ちの不動産を毎年のように売却しては数千万円の赤字

処理をし、その半分を国税還付金でとり戻すという明け暮れであった。絵の方はもっとひどく、その価値は1/10以下になったものが多い。大きなローンを組んで購入した数枚を現物給付して法人税の資本金に充てたので、今オークションで売却して損金処理すれば、わが法人は数年無税にする事も出来るだろう。敬愛するO先生のような目利きなら、所有するクレーの名画の裏板に更に別のクレーが画かれていたなどという幸運に出会う事もあるようだが、凡人には無理というものである。ちなみに私に絵画についてその序の口を覚えてくれただけで難病に倒れたA氏の言によれば、先生買ってよいのは、マチス、嗣治（藤田）のデッサン、モランディの静物、ウォーホルの写真ぐらいです。油彩など先生の財力ではとても無理ですから念のためというものであった。今県皮の中で最も熱心に競馬をしているのは私だろうと思う。私の編み出した“馬単4頭ボックス買い”の実績は驚異的で、今年の新潟遠征では、土・日、24レース中13レース的中、うち万馬券2つを含んでいた。この方法には、グリーンチャンネルと電話での馬券購入権と馬を見る目が必要になる。我が学問の師、香川三郎名誉教授の言に、“馬の気分はその日次第”というのがある。勝つためにはやはりパドックでの馬体を見て勝馬を選択出来る“眼”が必要となる。見る人の体調が万全でない“眼”が曇

ってくる。私は今本業をやめても、馬券で食えるのではないかと思ったりしている。誰か私の弟子になる人はいないか…。

妄想はさておいて、セミノーマ以後10数年ぶりに入院し、全麻で胆摘する際主治医に禁煙を命じられた。禁煙出来ねば手術をしないとまで言われて決意し実行した。術後結果を知って所謂“うつ状態”になって、日臨皮と県皮の常幹をやめた。自分に不向きな仕事をやめて、“うつ”から抜出したので、県皮の方だけ復職させて頂く一方で真面目に本業に精を出した。痔は前にふれた通り私の命を救うきっかけになってくれた。さて今回の胃癌は私に対し如何なる効用を示してくれるだろう。8月に数回起した数時間に及ぶ強い腹痛のため主治医から出された外食禁止令（勿論禁酒）が長期に亘ればという肉体的問題、あるいは又今日の依頼文が神聖なる神皮の紙面に泥を塗ったという有罪判決に問われて、県皮の副会長を辞任させられるようなら、今の私にとってこの上もない効用となるに違いない。

追記：会員の皆さん。男と女の仲になって長続き出来るのは“女房”だけです。私は今沢山の美人(?) 職員に囲まれて生きています。女房は何処に居るでしょう？ よく馬体を観て当ててみて下さい。それがあなたの勝馬なのです。



## 私の趣味《2》

# マルシャンディ・コーラの吟遊詩人

長谷哲男 (横浜市立大学大学院医学研究科環境免疫動態皮膚科学)

スモッグに覆われたカトマンドウの街、王政、民主化運動、ゲリラとの抗争と何かと騒がしい昨今のネパール。白き峰が屹立するヒマラヤに抱かれた緑豊かなくにネパール。小さな弦楽器（サランギ）を手に旅をする2人の少年に出逢ったのはマルシャンディ・コーラにそそぐ小さな流れを渡っているときでした。大勢のポーターや、我々登山隊メンバーに囲まれて、1人は大きな岩の上に座り、1人は石こ

ろの多い涸れた河原に立ったまま、あるいは笑わせ、あるいはしんみりと、朗々と澄んだ声で詞い上げる二重唱は、弦楽器の二重奏の伴奏にも映え、しばしキャラバンの暑さも、時のたつのも忘れさせるものでした。逞しいグルンのポーター達も荷物を下ろし、囃したて、笑い転げ、唄を口ずさみ一緒になって楽しんでいました。この時の印象は牧歌的ネパールという、理想郷的、桃源郷的幻想として残り、今でも



サラングを弾く旅の少年(右、左)



想い出すたびに、ネパールへの思慕の念をかき立てる記憶となってしまいました。

1978年当時も、ネパールは神秘のくにとして、良きにつけ悪しきにつけ多くの欧米人を引きつけるくにでした。また、毎年のように欧米や日本から数多くの登山隊がキャラバンを組み、ヒマラヤの峰々を目指し、ネパールにやってきました。我々がマナスル三山のヒマル・チュリ登頂を目指してカトマンドゥを発ったのは3月初めで、まだ6月のモンスーン到来までは間がある時期でした。エベレストのあるクアンブ地方、トレッカーに人気の高いアンナプルナ・ヒマール、古くからのチベット交易路として、タカリー商人が活躍し、繁栄したカリ・ガンダキ沿いのジョムソン街道とは異なり、ここマルシャンディ・コーラは訪れるトレッカーは稀で、それだけに観光地化していない、質素なネパールの佇まいを残している地域でした。マルシャンディ・コーラはマナスル三山とアンナプルナ・ヒマールの間を流れる大河で、グルカ兵で有名なグルンの故郷でもあり、邑々で日本に行ったという住人に会いました。カトマンドゥとポカラを結ぶ街道を離れ、マルシャンディ・コーラ沿いの街道にはいると車の通れる道はなく、狭いところではヒト1人が通れる幅しかない道が続いていました。しかし、左手にアンナプルナII峰やラムジュン・ヒマールを、右手にヒマル・チュリの鋭峰を望む旅はこの上もなく贅沢なものでした。乾季で埃っぽくなった道から望める麓の彼方に聳えるヒマラヤの山々は神々しくもあり眩くもあり、キャラバンの苦勞も忘れさせてくれるものでした。寂れているとはいえ、街道沿いには旅人のため

のバッテリー（休息所兼宿泊所）があり、飲食〔ダルスープとタルカリカレー（野菜カレー）の組み合わせが気に入った。餃子のようでもあり焼売のようでもあるモモはここでは食べられない〕ができるようになっていて、徒歩の旅に大変便利でした。ただ、水道や井戸はなく、トイレもなく、ましてや風呂もなく、水牛が水浴びする水路の水を生活用水として使っている関係上、どんなに暑くても現地の人たちは生水を飲むことはなく、バッテリーでの飲み物と言えぱんと言ってもドウドウチャ（たっぷり砂糖のミルク紅茶）でした。キャラバンは遙かに山を眺めながら、のどが渴

いたらバッテリーでドウドウチャやチャン（どぶろくに似ているが酸っぱく大変おいしいアルコール飲料）を飲み、おなかが空いたらタルカリカレーを食べました。そして、キャンプ地に着くと、近所の人たちが大勢集まり、我々の一挙手一投足を飽きることもなく、遠巻きにしてずーっと眺めていました。くだんの2人に会ったのは、そんなキャラバンの間でした。

マルシャンディ・コーラと別れをつげたころか



遙かにヒマル・チュリを望む邑



マルシャンディ・コーラのバッテリー。くつろぎの時

ら、溪は深くなり、山の上まで続く棚田の中腹にある  
邑を最後にいよいよ、雪に埋もれたヒマル・チュ  
リへの挑戦を開始したのです。

と、こんなことを書いていたら、無性にネパール  
にトレッキングに行きたくってしまうのだから不  
思議なものだ。



ヒマル・チュリ南極と雪原の登山隊

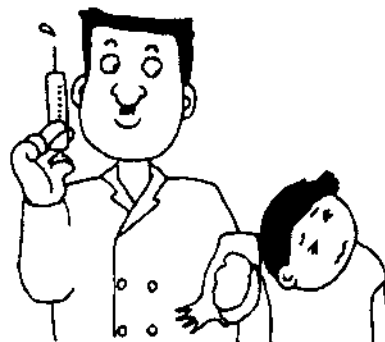
## Information

### 原稿募集

随筆 写真 絵 イラスト 何でも歓迎いたします。

以下の様な仮の題にても原稿をお待ちしています。

- A) お宝拝見 → 秘蔵の一品
- B) 秘伝&私の工夫etc.
- C) うまくなならないGolfの話
- D) 患者さんに教わったこと
- E) 教授こぼれ話
- F) 私の近くのこんな店



等です。どしどしお寄せ下さい。原稿は原稿用紙数枚分（最長10枚）。  
ワープロで書かれた方は、フロッピーも送ってください。  
顔写真（スナップでも構いません）もお願いします。

#### 宛て先

〒234-8503 横浜市港南区港南台3-2-10  
済生会横浜市南部病院 木花 光

TEL 045(832)1111  
FAX 045(831)0833